看護の統合と実践

構築の考え方とねらい

「看護の統合と実践」は基礎分野、専門基礎分野および専門分野の 7 領域で学習した知識や技術を統合し、卒業後、看護の現場にスムーズに適応できるよう 3 年間の総まとめとして、カリキュラムの最終段階に位置づける。

わが国は、医療の高度化や生活水準の向上により平均寿命が延伸した一方、少子化が進んでおり社会保障制度にも大きな影響を及ぼしている。また、高齢化の伸展に伴う地域包括ケアシステムの推進により、看護のニーズは多様化・複雑化している。このような中で看護の専門職として責務を果たしていくためには、生命の尊厳を守り、対象者の権利を擁護する高い倫理観や、専門的な知識に基づく判断力と看護の実践力を身につけることは必須である。

このような考え方に基づき「看護の統合と実践」は、あらゆる医療・看護活動の場や人々の多様で複雑なニーズに合った看護が実践でき、また保健医療福祉チームの一員として他の専門職と連携・協働できる能力を習得することをねらいとし、下記の7つの科目により構成する。

①国際看護
②災害看護
③看護管理
④医療安全
⑤専門職連携演習
⑥看護の統合と実践演習
⑦看護の統合と実践実習

「看護の統合と実践」は 3 年間の総まとめとしての領域であるため、既習の知識・技術を駆使しながら統合し、対象を多角的に捉え個々のニーズに合った看護が実践できるようにすることを最大のねらいとしている。そのため、本領域では新しい知識や技術の獲得にとどまらず、実際の現場や状況を想定したシナリオシミュレーターによる演習を強化し、既習の知識・技術の統合ができるようアクティブラーニングを中心とした授業を組み立てる。

「看護の統合と実践」は、学生が 3 年間の学習で習得した知識・技術に自信が持て、卒業後も看護の専門職業人として主体的に学びを継続する姿勢が持てるようにする領域である。